

## 日本語と中国語の接続表現 条件を表す『ば』

小川 泰生

### 0. はじめに

中国語の特色のひとつとして、関連詞を用いない接続表現があげられ、日本語の特色のひとつとして、条件表現が豊かなことがあげられる。これまで、「日本語と中国語の接続表現」(『藤原尚教授広島大学退官記念中国語学中国文学論集』1997年)で、日本語と中国語の接続表現を、「日本語と中国語の接続表現—仮定条件を表す『なら』」(『岡村貞雄博士退休記念中国学論集』1999年)で仮定条件を表す「なら」を、「日本語と中国語の接続表現—条件を表す『たら』—」(『中国学研究論集』第8号 2001年12月)で条件表現の「たら」をとりあげたが、本稿では条件表現の「ば」をとりあげて、それがどう中国語訳されているのかを見ていきたい。使用する資料は、川端康成著『雪国』、侍桁译《雪国》、叶涓渠译《雪国》、尚永清译《雪国》、高慧勤译《雪国》、老舍著《骆驼祥子》、立間祥介訳『駱駝の祥子』、である。

「ば」の用法については、益岡隆志他(2002)で、1. 時間を超えて成り立つ一般的な因果関係を表す用法、2. 特定の時空間に実現する個別的事態を表す用法、2-1. 前件が実現が見込まれる事態を表す用法、2-2 前件が仮定的事態を表す用法、2-3. 反事実的条件の用法、3. 事実的用法に分けている。<sup>1)</sup>本稿では、この分類に従って見ていくこととする。

### 1. 時間を超えて成り立つ一般的な因果関係を表す用法

この用法は益岡(2000)(2002)によると、物事の道理を表すものであり、そのために、過去のテンスを表すことはなく、また、後件のモダ

リテイは真偽判断を表すものに限られる。<sup>2)</sup>

『雪国』で「ば」がどう訳されているのかを見てみよう。

1. 「箆笥のなかを見れば、その女の性質が分るって言うよ。」(雪54)
  2. “常言说,到衣橱里一看就可以了解一个女人的性情了。”(雪①41)
  3. “有人说,只要看看衣柜里的东西,就晓得这个女子的性格了。”(雪②69)
  4. “人们常说,打开柜子一看就能知道那个女人的性格呀。”(雪③212)
  5. “一般常说,只要看一看衣柜里的东西,就可以知道女人的脾行如何了。”(雪④42)
  6. “人家说,只須看看衣櫃,就可以知道那个女人的性格。”(雪⑤53)
- 2, 4は“一～就”, 3, 5は“只要～就”, 6は“只～就”が用いられている。
7. 「ちょっと悪い評判が立てば,狭い土地はおしまいね。」(雪108)
  8. “只要有些坏名声,在这个小地方上就算完了。”(雪①84)
  9. “在这种小地方,一有点坏名声,可就完了。”(雪②109)
  10. “在这狭小的地方,一有人说长论短就糟糕了。”(雪③252)
  11. “要是名声一有不好,在这种小地方就算完了。”(雪④84)
  12. “可不是嘛。有了什麼不好的風評,在這巴掌大的地方,就什麼都完蛋了”(雪⑤110)

8は“只要～就”, 9, 10は“一～就”, 11は“要是～一～就”, 12は“了～就”が用いられている。11で“要是～一～就”が用いられているが,それほど仮定の意味は強くないので,ここはやはり,仮定条件を表す“要是”を用いない方がいいと思われる。

次に中国語の小説を日本語に訳したものではどうなっているのかを,老舎の『骆驼祥子』の日本語訳『駱駝の祥子』(立間祥介訳 岩波文庫)を資料として調べてみたい。立間氏が「ば」と訳されている箇所を中国語の原文と比べてみた。

13. 只要他自己肯咬牙,事儿就没有个不成。(祥7)

14. 自分ひとり歯をくいしばってがんばりさえすれば、なにごとだってできないということはないのだ。(祥①15)

13は“只要～就”が用いられている。「～さえすれば」は“只要～就”と対応する。

15. ～, 从北辛庄, 往北, 过魏家村; 往北, 过南河滩; 再往北, 到红山头, 杰王府; 静宜园了! (祥17)

16. 北辛庄から北へ魏家村, 南河灘を通過してさらに北上すれば紅山頭, 傑王府, それから静宜園だ。(祥①31)

15は関連詞は何も使っておらず, 意合法である。「さらに北上すると」とも言えることからわかるように, 仮定の意味がそれほど強くなく, 仮定条件を表す関連詞は必要ないのである。

17. 拉散座, 座儿一会儿一改; (祥35)

18. ～, 流しをやれば, 一回ごとに客はかわる。(祥①61)

17も関連詞は何も使っておらず, 意合法である。

19. ～, 只要自己好好的干, 就必定成功。(祥①52)

20. 一生懸命働きさえすれば, 成功疑いないのだ。(祥①92)

19は14と同じく, 「～さえすれば」は“只要～就”と対応する。

以上, 時間を超えて成り立つ一般的な因果関係を表す用法を見てきたが, “如果～就”, “要是～就”等の関連詞は用いられない。“只要～就”, “一～就”を用いたり, 関連詞なしの意合法で訳されている。

徐一平(2001)でも, 時間を超えて成り立つ一般的な因果関係を表す用法では, “要是～就”等の仮定条件を表す関連詞を用いておらず, “只要～就”, “一～就”を用いたり, 関連詞なしの意合法で訳されている。<sup>3)</sup>

21. 春が来れば花が咲く。(619)

22. 春天一到, 花就开。

22は“一～就”が用いられている。

23. 年をとれば身体が弱くなる。(619)

24. 上了年纪身体就会变弱。

24は“～了～就～”が用いられている。

25. 信じていれば夢はかなうものだ。(619)

26. 只要信。美梦就能成真。

26は“只要～就～”を用いている。

27. 誰でもほめられればうれしい。(619)

28. 无论是谁。受到表扬都高兴。

28は関連詞は何も使っておらず、意合法である。

時間を超えて成り立つ一般的な因果関係を表す「ば」は、“只要～就～”，“一～就～”を用いたり、関連詞なしの意合法等で訳される。

## 2. 特定の時空間に実現する個別的事態を表す用法

### 2-1 前件が実現が見込まれる事態を表す用法

前件が実現が見込まれる事態を表す用法とは、益岡(2002)によると、前件はこれから先の時点で実現が見込まれていることを表し、後件では、そのような見込みのもとに、その事態が実現した場合のことが表されているものことであり、前件、後件ともに未然の事態を表しており、非現実の事態の表現である。<sup>41)</sup>

29. やがて年の暮から正月になれば、あの道が吹雪で見えなくなる。  
(雪40)

30. 转眼就要从年底转到正月,那条道路将被暴风雪隐没。(雪①30)

31. 女子从山上客栈的窗口俯视过黎明前的坡道。过些时候,从年底到正月这段日子,这条坡道将会被暴风雪埋没。(雪②58)

32. 很快,一到了年前年后,那条路就该被暴风雪埋没了。(雪③201)

33. 不久,从年底到正月这段日子,那条路就会给暴风雪埋住了。(雪④30)

34. 那时她说,时间就要从年末进入正月了,在这一段时间里那条路将会被暴风雪所覆盖。(雪⑤38)

30, 31, 34は何も関連詞は用いられておらず、意合法である。32は“一

～就～”，33は“就”を用いている。

次に，《骆驼祥子》はどうなっているのかを見てみよう。

35. 身上的伤，不久就会好的。(祥16)

36. 痒だっ<sup>●</sup>てしばらくすれば消えてしまう。(祥①29)

35は“就”が用いられている。

37. 再过二三年，我也得跟您一样！(祥87)

38. もう二，三年もすれば，こちらともあんたとおんなじようになるのさ。(祥①156)

37は何も関連詞は用いられておらず，意合法である。

徐一平（2000）では，この用法について触れていない。

小川（2001）で，前件が実現が見込まれる事態を表す「たら」は，仮定条件を表す関連詞を用いないことを指摘したが，「ば」についても，前件が実現が見込まれる事態を表す用法の場合は，仮定条件を表す関連詞を用いず“就”が用いられたり，意合法で訳されたりする。

## 2-2 前件が仮定的事態を表す用法

前件が仮定的事態を表す用法とは，益岡（2002）によると，前件で未然の事態が仮定され，その仮定のもとに後件でその帰結が述べられているものをいう。<sup>6)</sup>

39. 「そうしておけば，今度僕が家族を連れて来たって，君と気持ちよく遊べるさ。」(雪22)

40. “如果能够那样的话，下一次我即使把家小带来了，也可以同你愉快地一起游玩了。”(雪①15)

41. “要是这样说定了，下次我就是带家属来，也能同你尽情玩的啊。”(雪②44)

42. “这样做的话，下次我把家属带来时，也可以愉快地跟你一块儿玩儿呀。”(雪③187)

43. “这样的话，下次我把家眷带来，便可无所顾忌地同你畅游了。”(雪

④16)

44. “如果<sup>●●</sup>這樣，下次我就是帶家人同來時，也能跟你儘情地暢遊了”（雪

⑤18)

40, 44では“如果”，41では“要是”，42では“～的话”，43では“～的话～便～”が用いられている。

45. ～，ただ，うちへことわずに泊れば芸者の責任で，どうなろうとかまってはくれないが，うちへことわっとけば抱え主の責任で，どこまでも後を見てくれる，（雪22）～

46. 只是如果<sup>●●</sup>没和养家谈好就留在外面，那是妓艺的责任，以后有什么事，养家一概不管，可是如果<sup>●●</sup>预先谈清楚，那就是养家的责任，后事全部由养家照料，只有这一点是不同的。（雪①15）

47. 只是预先没向主家打招呼就外宿，得由艺妓本人负责。后果如何，主家可就不管了。但是，如果<sup>●●</sup>事先向主家关照过，那就是主家的责任，他得管你一辈子。（雪②44）

48. 不过，要是<sup>●●</sup>跟家里不打招呼就外宿的话，责任要自己负，出了事家里不管。要是<sup>●●</sup>打了招呼，那就是老板的责任，他负责到底。（雪③188）

49. 艺妓倘若<sup>●●</sup>不告诉东家，擅自<sup>●●</sup>在外面留宿，出了事自己担责任，东家一概不管；要是<sup>●●</sup>事先关照过的，就由东家负责，承担一切后果。（雪④22）

50. ～；但若<sup>●●</sup>不事前请示業主就外宿，其後果得由藝妓自己負責，業主便什麼都不管了；如果<sup>●●</sup>事先打過招呼的話，則是業主的責任，他須承擔所有後果。（雪⑤19）

46はともに“如果”が，47は一つ目の「ば」は意合法で何も関連詞は用いられておらず，二つ目の「ば」は“如果”が，48は“”一つ目は“要是～的话”，二つ目は“要是”が，49は一つ目は“倘若”，二つ目は“要是～就～”が，50は一つ目は“若”，二つ目は“如果～的话，则～”が用いられている。

51. 「日記を見れば，直ぐ分るわ」（雪33）

52. “一看<sup>●●</sup>日记立刻就晓得了。”（雪①24）

53. “只要翻翻日记就知道了。”(雪②52)

54. “一看日记就知道了呗。”(雪③196)

55. “一看日记就知道了。”(雪④25)

56. “一看日记就知道了。”(雪⑤30)

52, 54, 55, 56は“一～就～”を、53では“只要～就～”を用いている。前件が仮定的事態を表すとはいっても、それほど強い仮定を表すわけではないので、こうした訳になっている。

57. 「顔を赤くしたり、ばたばた追っかけて来たりすれば、なお困るじゃないか」(雪42)

58. “面孔通红又吧哒吧哒地跟着跑来,不更叫人难为情吗?”(雪①31)

59. “你这样红着脸,嘎达嘎达地追上来,不是更难为情吗?”(雪②59)

60. “你红着脸,吧嗒吧嗒地跑着追上来,岂不更叫我尴尬吗?”(雪③203)

61. “一会儿脸红,一会儿又叭哒叭哒追上来,岂不是更窘吗?”(雪④32)

62. “妳羞紅了臉,這樣一逕趕了過來,不是更難為情嗎?”(雪⑤40)

58～62はすべて関連詞を用いていない。

次に、《骆驼祥子》はどうなっているのかを見てみよう。

63. ～, 有好买卖呢就拉一两个; 没有呢, 就收车, (祥10)

64. 上客がいたら一人か二人なら引いてみるのもよし, いなければさっさとひきあげよう。(祥①19)

63は“～呢, 就～”を用いている。

65. 他们要是不放弃这几个牲口呢, 他也跟着完事; (祥①33)

66. やつらが駱駝たちをすてなければ, おれも一巻のおわりだ。(祥①33)

65は“要是～呢”を用いている。

徐一平(2001)でも,

67. もし天气が悪ければ, 試合は中止になるかもしれない。

68. 如果天气不好的话, 比赛可能会终止。(621)

69. 手術をすれば助かるでしょう。  
 70. 如果手术的话就能得救吧。(621)  
 71. 田中さんが行かなければ、私も行かない。  
 72. 如果田中不去的话,我也不去。(622)  
 73. やりたくなければやるな。  
 74. 你不愿意干就别干了。(623)  
 75. 明日, 天气がよければ海に行きませんか。  
 76. 如果明天天气好的话, 去不去海边? (623)

68, 72, 76は“如果～的话”70は“如果～的话就～”, 74は“就”が用いられている。

以上, 前件が仮定的事態を表す用法を見てきたが, “要是～就～”, “如果～就～”, “如果”, “要是”, “～的话”, “要是～的话”, “如果～的话”, “倘若”等, 假定条件を表す関連詞が用いられることが多い。67のように, 「もし」が入った文章は, 假定条件の意味合いが強く, 假定条件を表す関連詞が用いられる。

### 2-3 反事实的条件の用法

反事实的条件の用法とは, 益岡(2002)によると, 事実<sup>7)</sup>に反する仮定を表す用法のことであり, 前件の述語は動的なものも用いられないことはないが, 状態性のものである場合が多く, 後件の述語は「～た」という形式を取る<sup>7)</sup>ことが多い。

77. 「あれば迷うことないじゃないの。」(雪53)  
 78. “如果有了的话, 还有什么拿不定主意呢。”(雪①40)  
 79. “要是<sup>●●</sup>有, 就用不着为难了。”(雪②53)  
 80. “要有还会拿不定主意?”(雪③211)  
 81. “要是<sup>●●</sup>有点什么, 何至于这么拿不定主意。”(雪④41)  
 82. “若是<sup>●●</sup>这样, 岂不就不迷惘了吗?”(雪⑤52)

78は“如果～的话”, 79は“要是～就～”, 80は“要”, 81は“要是”,



82は“若是”が用いられている。

83. 「君を軽蔑していなければ、言いにくいさ。」(雪55)  
 84. “我很尊重你,所以难于开口。”(雪①42-11)  
 85. “除非是瞧不起你,不然就很难开口。”(雪②70)  
 86. “要不是瞧不起你,就不好跟你说呀。”(雪③213)  
 87. “除非瞧不起你,不然就说不出口。”(雪④43)  
 88. “除非是瞧不起你,要不然就是难开口的事。”(雪⑤54)

84は意識している。85は“除非～不然就”, 86は“要～就”, 87は“除非～不然就”, 88は“除非～要不然”が用いられている。

89. 「しようとおもえば, 四年の年期が二年になるんだけど, 無理をしないの。」(雪88)  
 90. “想干的话, 四年的限期, 两年也干得完, 可是为了保重身体, 就不勉强去做。”(雪①68)  
 91. “要是我愿意, 可以把四年期限缩成两年, 可我不想勉强去做, 还是身子要紧。”(雪②95)  
 92. “只要我想做, 四年的合同就能就成两年, 可是我不想拼命, ~”(雪③237)  
 93. “只要自己舍得干, 四年的期限, 就可以缩短到二年, 可我从不胡来。”(雪④68)  
 94. “肯做的話, 四年的期限可以縮短為兩年, 但我不肯太過勞累, ~”(雪⑤89)

90は“~的话”, 91は“要是”, 92, 93は“只要～就～”, 94は“~的话”が用いられている。

95. 「無理すれば, ずいぶん線香が出るだろうな。」(雪88)  
 96. “如果硬着干, 线香钱就要多多啦。”(雪①68)  
 97. “勉强做了, 也许会赚到许多钱。”(雪②95)  
 98. “如果拚的话, 收入肯定会多的。”(雪③238)  
 99. “要是勉强自己去做, 那能赚不少钱哩。”(雪④68)

100. “勉強去做, 香錢也許能掙得很多。”(雪⑤89)

96は“如果～就～”, 97は“了”, 98は“如果～的话”, 99は“要是”が用いられている。100は何も関連詞が用いられていないが, ここは仮定の意味が強いので, やはり96～99のように, 関連詞を用いた方がよいと思われる。

101. 曹先生被凉风一飏, 大概是半睡觉了, 要不然他必不会阻止祥子这样的飞跑。(祥60)

102. 曹先生も涼しい風のなかでうとうとしていたらしい。さもなければ, 祥子にこんなにとばさせはしなかつただろう。(祥①107)

101は“要不然”を用いている。

反事実的条件を表すものの場合も, 仮定の意味が強いので, “如果～就～”, “要是～就～”, “要是”, “如果～的话”, “若是”, “～的话”, “除非～不然就～”, “只要～就～”等の仮定条件を表す関連詞が用いられる。

徐一平(2001)でも,

103. 宿題がなければ夏休みはもっと楽しいのに。

104. 如果没有作业, 暑假会更快快乐。(625)

105. お金があれば買えたんだが。

106. 如果有钱的话就买下了。(625)

107. あの時すぐに手術をしていれば, 助かったにちがいない。

108. 如果当时马上手术的话, 肯定会得救的。(626)

104は“如果”, 106は“如果～的话就～”, 108は“如果～的话”を用いている。

以上, 反事実的条件を表すもの場合は, 仮定条件の意味が強いので, “如果～就～”, “要是～就～”, “要是”, “如果～的话”, “若是”, “～的话”, “除非～不然就～”, “只要～就～”等の仮定条件を表す関連詞が用いられる。

### 3. 事実的用法

事実的用法について、益岡（2002）は、前件、後件が個別的事態を表す場合と、既然の反復的事態を表す場合をあげている。

109. 「そら、僕が言い出せば、話をそらすじゃないか。」（雪55）

110. “你看我一提出来，你不就把话扯开了吗？”（雪①42）

111. “瞧你，我一说，你就把话儿岔开了。”（雪②70）

112. “瞧，这不，我一提这个你就打岔么。”（雪③213）

113. “你看，我刚开口，你就打岔。”（雪④43）

114. “妳看，我一提起，妳就把話岔開了。”（雪⑤54）

110, 111, 112, 114は“一～就～”，113は“就”を用いている。

115. 「五年も続けば、上等の方じゃないか。」（雪。87）

116. “能够继续了五年，那算是很不错了。”（雪①68）

117. “能维持五年，总算是不错了。”（雪②94）

118. “能持续了五年，不是很好了吗？”（雪③237）

119. “既然相处了五年，那人也算是好的了。”（雪④68）

120. “能持續五年之久，不是很要好嗎？”（雪⑤89）

116～120は関連詞を用いておらず、意合法を用いている。

121. 裏へ出て見たれば

梨の樹が三本

杉の樹が三本

みんなで六本（雪117）

122. 到后面去一瞧

梨树有三棵

杉树有三棵（雪①91）

123. 出了后院看呀看，

一共六棵树呀，

三棵梨树，

三棵杉。（雪②116）

124. 来到后院看看吧！

三棵梨树长得大

还有杉树也三棵（雪③258）

125. 来到房后瞧一瞧，

梨树有三株，

杉树有三株，（雪④90）

126. 轉到後門瞧

梨樹有三株

杉樹有三株（雪⑤120）

122～126は関連詞を使っておらず、意合法を用いている。

127. 駒子に言われてみれば、十分に心疚しいものがあつた。（雪126）

128. 想到驹子的说话,他心中十分感到内疚。（雪①97）

129. 让驹子这么一<sup>●</sup>说,有许多事情他是问心有愧的。（雪②122）

130. 被驹子这么一<sup>●</sup>说,心里确实感到了内疚。（雪③264）

131. 听驹子这么一<sup>●</sup>说,心里十分内疚。（雪④97）

132. 被驹子這麼一<sup>●</sup>說,他的確感到十分歉疚。（雪⑤130）

128は意合法を用いている。129, 130, 131, 132は“一”を用いている。

《骆驼祥子》ではどうなっているのかを見よう。

133. ～, 及至放下脚去, 却是平坦的。（祥21）

134. そのくせ足をおろしてみれば平らなのだ。（祥①37）

“及至”を用いている。

135. 现在刚逃出命来, 又回到熟人这里来, 还让他吃饭, ～（祥40）

136. そしていま, 命びろいをしてなつかしい人々のところに帰りに着いてみれば, ご飯までよんでくれようというのだ。（祥①61）

135は関連詞は使われておらず、意合法である。

137. 自己有间宽绰的屋子, 又可以消消停停的吃三顿饭, 再加上主人很客气, 祥子, 连祥子, 也不肯专在钱上站着了。（祥57）

138. 自分用の広い部屋があつて, 三度三度ご飯があてがわれ, そのうえ

ご主人がおだやかとなれば、いかな様子といえども、金、金とばかりは言っていたらなかつた。(祥①102)

137は関連詞は使われておらず、意合法である。

139. 有这点钱, 祥子什么也不怕。(祥91)

140. この金さえあれば、おれはこわいものなしなんだ。(祥164)

この金はすでにあるのである。139は関連詞は使われておらず、意合法である。

141. 他迷了小胡同, 还跟着! 出了胡同, 还跟着! (祥94)

142. 横町にはいれば、相手もつづいてくる。でると、相手もでる。(祥①168)

141は関連詞は使われておらず、意合法である。

143. “我看昨天晚上你是有点绕住了; 遇上急事, 谁也保不住迷头。”(祥111)

144. 「ゆうべはだいがまいつていたようだが、だしぬけにあんなことにぶつかれば、だれだっていいかげんおかしくなつちまわな。」(祥①200)

143は関連詞は使われておらず、意合法である。

徐一平 (2001) でも、

145. 据说他是个怪人, 见面一看, 倒不像传说的那样。

146. 彼は変わり者だという評判だったが、会ってみれば、うわさほどのことはなかつた。(627)

147. 听人一说觉得那也有道理。

148. 言われてみればそれももつともな気がする。(627)

149. 开始之前有些担心, 一切结束以后, 觉得也没什么大步了的事。

150. 始める前は心配だったが、すべてが終わってみれば、それほど大したことではなかつたと思う。(627)

145, 147は“一”, 149は“以后”を用いている。

事実的用法を表す場合は、仮定の意味はないので、仮定条件を表す関連

詞は用いられず，“一”や“以后”が用いられる。

### 3. おわりに

条件を表す「ば」がどのように訳されるか見てきた結果、以上のことがわかった。1. 時間を超えて成り立つ一般的な因果関係を表す用法の場合は，“只要～就～”，“一～就～”を用いたり，関連詞なしの意合法で訳されており，仮定条件を表す“如果～就～”，“要是～就～”，“假若～就～”等の関連詞は用いられない。2-1. 前件が実現が見込まれる事態を表す用法の場合も，“就”が用いられたり，意合法で訳されたりしており，仮定条件を表す“如果～就～”，“要是～就～”，“假若～就～”等の関連詞は用いられない。2-2. 前件が仮定的事態を表す用法は，“要是～就～”，“如果～就～”，“如果”，“要是”，“～的话”“要是～的话”，“如果～的话”，“倘若”等，仮定条件を表す関連詞が用いられる。2-3. 反事実的条件の用法の場合も，“如果～就～”，“要是～就～”，“要是”，“如果～的话”，“若是”，“～的话”，“除非～不然就～”，“只要～就～”等の関連詞が用いられる。3. 事実的用法を表す場合は，仮定条件を表す関連詞は用いられず，“一”や“以后”が用いられる。

以下に，簡単にまとめてみると，

用法	中国語訳
1. 時間を超えて成り立つ一般的な因果関係を表す用法の「ば」	“只要～就～”，“一～就～”，意合法
2-1. 前件が実現が見込まれる事態を表す用法の「ば」	“就”，意合法
2-2. 前件が仮定的事態を表す用法の「ば」	“要是～就～”，“如果～就～”，“如果”，“要是”，“～的话”，“要是～的话”，“如果～的话”，“倘若”等
2-3. 反事実的条件の用法の「ば」	“如果～就～”，“要是～就～”，“要是”，“如果～的话”，“若是”，“～的

	話”，“除非～不然就～”，“只要～就～”等
3. 事実的用法の「ば」	“一”，“以后”

仮定条件の弱いものは、関連詞を用いずに意合法で訳し、仮定条件が強くなるにしたがって、“一”，“一～就～”等で訳し、更に強くなると，“要是”，“如果”，“若是”，“～的话”，“倘若”，“要不是”，“如果～就～”，“要是～就～”，“如果～的话就～”等、仮定条件を表す関連詞を用いて訳されるのである。

一応、以上のようにまとめられるが、先にも指摘したように、例文7. 「ちょっと悪い評判が立てば、狭い土地はおしまいね。」(雪108)を訳す場合、11. “要是名声一有不好, 在这种小地方就算完了。”(雪④84)のように訳すのは、全くの誤訳とは言えないが、それほど仮定の意味は強くないので、ここはやはり、仮定条件を表す“要是”を用いない方がいい。また、51. 「日記を見れば、直ぐ分るわ」(雪33)は、前件が仮定的事態を表す用法ではあるが、それほど強い仮定を表すわけではないので、55. “一看日记就知道了。”(雪④25)のような訳になっている。95. 「無理すれば、ずいぶん線香が出るだろうな。」(雪88)は、仮定の意味が強いので、96. “如果硬着干, 线香钱就要多多啦。”(雪①68)のように、仮定条件を表す関連詞を用いた方がいい。このように、仮定の条件の強さに注意した翻訳を心がけることが肝要であり、それに注意しないと、誤訳とは言えないが、原文の持つニュアンスが伝わりにくくなる。

注

- 1) 益岡 (2002) pp. 73～78
- 2) 益岡 (2002) p74
- 3) 徐一平他 (2001)。傍点筆者。以下同じ。

- 4) 益岡 (2002) pp. 74~75
- 5) 小川 (2001) pp. 16~17
- 6) 益岡 (2002) pp. 74~77
- 7) 益岡 (2002) p77
- 8) 益岡 (2002) pp. 77~78

#### 例文出典と略語

1. 雪:『雪国』 川端康成 1987年 新潮文庫
2. 雪①:《雪国》 川端康成著 侍桁译 1981年 上海译文出版社
3. 雪②:《雪国》 川端康成著 叶渭渠译 1998年 外国文学出版社
4. 雪③:《雪国》 川端康成著 尚永清译 1997年 商务印书馆
5. 雪④:《雪国》 川端康成著 高慧勤译 1985年 漓江出版社
6. 雪⑤:《雪国》 川端康成著 金溟若译 1994年 星光出版社
7. 祥:《骆驼祥子》 老舍著 1997年 人民文学出版社
8. 祥①:『骆驼の祥子』 老舍著 立間祥介訳 1980年 岩波書店

#### 参考文献

1. 益岡隆志 (2002) 「複文各論」『複文と談話』 岩波書店
2. 益岡隆志 (1997) 『複文』 くろしお出版
3. 益岡隆志 (2000) 『日本語文法の諸相』 くろしお出版
4. 益岡隆志 (1993) 「日本語の条件表現について」『日本語の条件表現』 くろしお出版
5. 生田目弥寿 (1982) 「接続の表現」『日本語教育事典』 大修館書店
6. 佐治圭三 (1982) 「接続成分」『日本語教育大事典』 大修館書店
7. 益岡隆志 (1997) 『複文』 くろしお出版
8. 寺村秀夫 (1981) 『日本語の文法 (下)』 国立国語研究所
9. 森田良行 (1988) 『日本語の類意表現』 創拓社



- 1 0. 前田直子 (1995) 「バ、ト、ナラ、タラ—仮定条件を表す形式—」  
『日本語類義表現の文法 (下)』くろしお出版
- 1 1. 大河内康憲 (1967) 「複句における分句の接続関係」『中国語学』  
176
- 1 2. 大河内康憲 (1986) 「中国語の文と句の接続」『日本語学』1986.  
10
- 1 3. 小川泰生 (2001) 「日本語と中国語の接続表現—条件を表す『た  
ら』—」『中国語学研究論集』第8号
- 1 4. グループ・ジャマシイ (2001) 『日本語文型辞典』くろしお出版
- 1 5. 徐一平他 (2001) 《中文版日语句型辞典》くろしお出版
- 1 6. 吕叔湘 (1980) 《现代汉语八百词》商务印书馆
- 1 7. 刘月华等 (1983) 《实用现代汉语语法》外语教育与研究出版社
- 1 8. 范晓 (1998) 《汉语的句子类型》书海出版社
- 1 9. 邢福义 (1985) 《复句与关系词语》黑龙江人民出版社
- 2 0. 赵恩芳 唐雪凝 (1998) 《现代汉语复句研究》山东教育出版社
- 2 1. 黄成稳 (1990) 《复句》人民教育出版社

# 汉语和日语的连接关系

## —— 表示条件关系的“ば” ——

小 川 泰 生

汉语特色之一是不使用关连词,就能显示出两个句子之间的连接关系。日语特色之一是条件表现相当丰富。这篇论文举出条件表现的“ば”,观察它如何被译成日语。采取的语料是川端康成的《雪国》以及它的5种中文译本,还有老舍的《骆驼祥子》和立间祥介的日文译本。

表示条件的“ば”,怎么样被译成中文呢?根据益冈隆志(2002)的分类,可以得到以下的结果。1.超越时间而成立的表示一般性因果关系用法的场合,用“只要~就~”、“一~就~”,或者作不用关连词的意思,不使用表示假定条件的“如果~就~”、“要是~就~”,“假若~就~”等关连词。2-1,表示预测前件能够实现的用法,或用“就”,或意译,不使用表示假定条件的“要是~就~”,“如果~就~”,“假若~就~”等关连词。2-2,表示前件为假定事态的用法,使用表示假定条件的关连词,如:“要是~就~”、“如果~就~”、“如果”、“要是”、“~的话”、“要是~的话”、“如果~的话”、“倘若”等。2-3,反事实条件用法的场合,也使用关连词,如“如果~就~”、“要是~就~”、“要是”、“如果~的话”、“若是”、“~的话”、“除非~不然就~”、“只要~就~”等。3.表示事实实用法的场合,不用表示假定条件的关连词,而用“一”或者“以后”。

如果假定条件弱,不用关连词,而采用意译法,随着假定条件的增强,就翻译成“一”、“一~就~”,更强的场合,应该使用表示假定条件的关连词,如“要是”、“如果”、“若是”、“~的话”、“倘若”、“要不是”、“如果~就~”、“要是~就~”、“如果~的话就~”等。

因此,翻译时留意假定条件的强度,是非常重要的。稍一忽略,虽不能说是误译,却可能丧失原文的神韵。